

工学部だより

2026.6

No.31



米沢キャンパス内「旧米沢高等工業学校本館(国の重要文化財)」(2025.11撮影)

目

各学科の研究紹介	2
ごあいさつ	4
学務委員会だより	5
教務委員会だより	5
山形の未来を切り開け!	6
学科だより	7
キャリアサポート室だより	10
学生相談室だより	10
もりもり留学体験記 in Thailand!!	11
就職活動と後輩へのアドバイス	12

次

令和7年度卒業・修了者の就職・進学先一覧	13
令和7年度卒業・修了者の就職状況	14
山形大学工学部後援会会則	15
令和6年度一般会計収支決算書及び 令和7年度一般会計収支予算書	15
山形大学工学部父母等の集い 令和7年度実施報告	16
お知らせ	16
令和8年度工学部年間予定表・後援会通信	16

各学科の研究紹介

高分子・有機材料工学科

生体表面から体内化学情報を取得する センシング技術の研究

私達はヒト、植物、細菌を対象に、その体表構造を傷つけることなく体内化学情報を取得するセンシング技術を研究開発しています。例えばヒトと植物に関しては、皮膚および葉の表面にハイドロゲルを介して化学センサを貼付するだけで、体内化学成分をゲル内に抽出しながら検出可能としました。また細菌に関しては、導電性高分子を介して細菌と電極を接触させることで、細菌の代謝活性を電流応答として測定可能としています。私達は以上の非侵襲的測定技術をヘルスケア、農業分野に応用することに挑戦しています。



大学院有機材料システム研究科 有機材料システム専攻 教授
長 峯 邦 明



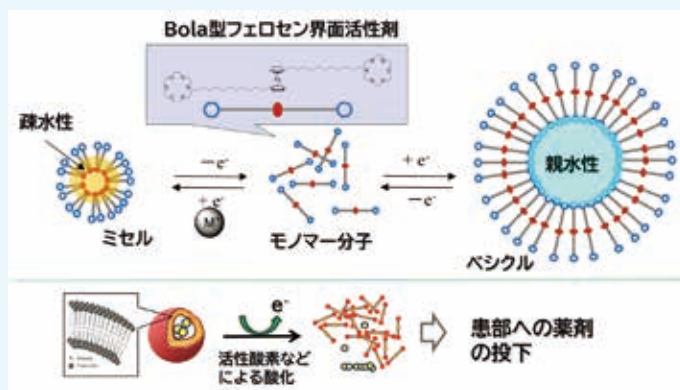
化学・バイオ工学科

生き物に学び、分子で未来をひらく

当研究室では、有機合成を基盤として、「生物機能に学ぶ超分子化合物の創製」と、有用物質生産を目指した「生物(酵素)駆動型技術の開発」に取り組んでいます。近年は、有機金属錯体であるフェロセンをキーマチーフとし、補酵素NAD⁺にフェロセンを導入した自己再生型電子メディエーターや、レドックス応答性を有する新規フェロセン界面活性剤の開発を進めています。特にBola型フェロセン界面活性剤は、サイズ・構造・崩壊挙動を制御可能な新規ドラッグデリバリーシステムキャリアとして期待され、新たな治療法の創出を目指しています。



大学院理工学研究科 化学・バイオ工学専攻 教授
木 島 龍 朗



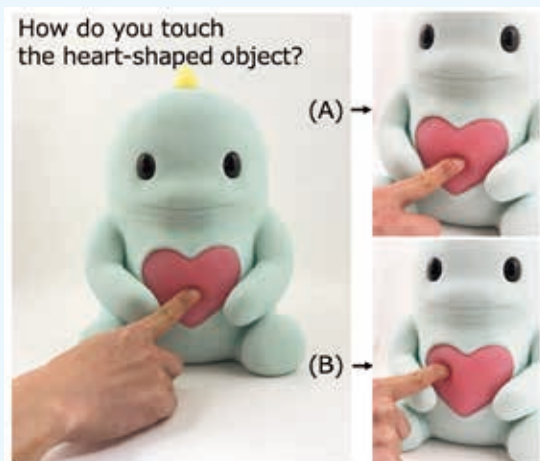
情報・エレクトロニクス学科

3Dプリンティングと情報工学の融合から生み出す やわらかアニマロイド

日常の中で、やわらかいものに触れると安心したり、思わず触れ続けてしまった経験はないでしょうか。「やわらかさ」は、物理的な衝撃を受け止めるだけでなく、触れ方に応じて変形し、その応答が人とのコミュニケーションを自然に引き出す力があります。このやわらかさを持つ材料を3Dプリンティングによって成形し、内部に機構や人工知能を組み込むことで、「やわらかアニマロイド」と呼んでいる存在を創り出しています。やわらかアニマロイドは、生き物のように柔らかく、人との触覚的なインタラクションを通じて情報をやり取りする媒体です。こうした存在を通じて、人とモノの関係を拡張し、新しいコミュニケーションのかたちを探求しています。



大学院理工学研究科 数理情報システム専攻 准教授
小 川 純



機械システム工学科

人工筋肉： ソフトマテリアルで人を支える

ゴム・繊維・ゲルなど、柔らかい素材で構成された「ソフトアクチュエータ」は人や周辺環境との接触に対し柔軟に変形し、高い安全性や形状適応性を有します。その一つである「空気圧ゴム人工筋肉」は空気圧で収縮し、軽量でありながら人体を支えられるほどの出力を併せ持ちます。他にも摺動部のない高気密な構造は屋外やクリーンな環境でも使用可能です。

当研究室ではこの人工筋肉を用いたロボットアームやパワーアシストスーツを開発し、作業に従事する人を支えるための技術提供を目指しています。特にアシストスーツでは生体筋の配置や腹圧の影響など、医学的知見に基づく効果的な補助のあり方を模索しています。



大学院理工学研究科 機械システム工学専攻 准教授

戸 森 央 貴



建築・デザイン学科

伝統構法を現代に活かすリデザイン

山形県をはじめ国内外のさまざまな地域を対象に、民家や小屋、倉などの木造建築に受け継がれてきた伝統構法の調査・記録と、現代的なリデザインの手法に関する研究を行っています。伝統構法は、地域の気候や生業に対応した材料の使い方、生産、維持管理の知恵を含む建築技術です。山形県飯豊町では、茅を用いた雪囲い・風除けである「かざらい」を調査し、資源循環型の建築技術として捉え直しています。また、茅を用いた仮設空間への再構成や、民家にみられる柱・貫の構法を現代的に再解釈し、家具や人が集う場へと展開する制作にも取り組んでいます。伝統構法を現代の建築設計や地域空間の形成に応用することを目指しています。



大学院理工学研究科 建築・デザイン・マネジメント専攻 准教授

濱 定 史



システム創成工学科

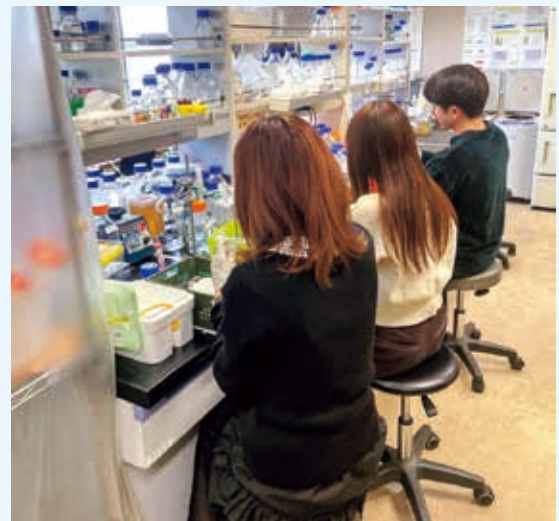
タンパク質の形をバイオテクノロジーで 作り変えて新しい薬を作る

我々の研究室では、抗体の「形」と「働き」の関係を分子レベルで解明し、より高機能な抗体の設計につなげることを目指しています。特に、がんの治療薬として注目されている、複数の抗原を同時に認識できる二重特異性抗体に注目し、抗体同士のつなぎ方や抗原の配置が活性に与える影響を詳細に解析しています。近年の研究では、抗体の連結配置を最適化することで、がん細胞を効果的に免疫細胞が殺傷できる分子を作り出しました。これらの成果は、次世代の医薬品開発に貢献するものであり、タンパク質工学や分子認識の知見を活かした新しいバイオ医薬品創製技術の確立を目指しています。



大学院理工学研究科 化学・バイオ工学専攻 教授

真 壁 幸 樹





ごあいさつ

工学部長 野々村 美 宗

工学部後援会の皆様におかれましては、益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。また、平素より本学工学部の教育研究活動に対し、多大なるご支援とご厚情を賜っておりますこと、この場を借りて深く御礼申し上げます。

米沢の地に脈々と受け継がれてきた「為せば成る」の精神は、時代が変われども色褪せることはありません。私たちは「研究の工学部」として、世界に通用する先端的な研究を推進するとともに、その成果を地域社会、ひいては地球規模の課題解決へと繋げるべく、日々邁進しております。本日は、現状と未来への展望についてご報告させていただきます。

1. 地域と世界を結ぶ研究の最前線

工学部が現在、最も力を入れている事業が、文部科学省の「地域中核・特色ある研究大学強化促進事業（J-PEAKS）」への参画です。私たちは「地域と共創し、持続的な革新技术をもたらす研究大学」として、サステナブル社会の実現と南東北の地域創生に貢献することを目指しています。これは単なるスローガンではありません。私たちの研究室で生まれる一つひとつの技術が、地域の産業を刺激し、新たな雇用を生み、ひいては世界の持続可能性を支える基盤となる——。この米沢から世界につながる流れを、これまで以上に加速させて参ります。

その象徴的なプロジェクトの一つが、古川英光教授を中心に進められている「革新的宇宙ガストロノミー技術開発拠点」です。3Dフードプリンティング技術を駆使して、宇宙空間という極限状態での「食」をデザインするこの研究は、未来の宇宙生活を支えるだけでなく、地上における介護食や災害時の食支援といった課題解決にも直結しています。SFの世界の話だと思われていたことが、工学部の研究室で現実のものとなりつつあります。この「ワクワクする研究」こそが、本学部の真骨頂と言えるでしょう。

2. 時代を先導する教育の挑戦

研究の熱気は、そのまま教育の現場へと注ぎ込まれます。私たちは、学生が自ら手を動かし、未知の

領域に挑む実践的な学びを重視しています。その代表例が「森の学校」構想であり、超小型人工衛星「ベニバナ・サット」の開発プロジェクトです。学生たちが自ら設計・製作した衛星が宇宙へと飛び立つプロセスは、工学の基礎から応用、そしてプロジェクトマネジメントまでを学ぶ最高の舞台となっています。

また、国家戦略としても重要性が高まっている「半導体」分野においても、本学部は先駆的な役割を果たしています。東北地方における半導体産業の再興を見据え、関連企業との連携を強化するとともに、クリーンルームを活用した実習や最先端のデバイス開発に触れる機会を創出しています。理論だけでなく、実社会のニーズに即応できる高度な技術者・研究者の育成は、私たちに課せられた重要な使命であると確信しております。

3. 開かれたキャンパスと社会連携

大学は、社会と密接に繋がり、共に成長する場であるべきです。その新たな試みとして、キャンパス内の施設に企業名などを冠する「ネーミングライツ」を導入しました。この取り組みによって、民間企業とのパートナーシップが可視化され、施設環境の整備を進めるとともに、学生が日常的に社会との接点を感じられる環境を整えて参ります。

米沢のキャンパスを歩けば、新しい看板やリニューアルされた施設が目に入るはずですが、それは、山形大学工学部が変化を恐れず、外部の力を柔軟に取り入れながら進化を続けている証でもあります。

4. 結びに代えて

「研究の工学部」として私たちが進む道は、決して平坦なものではありません。しかし、困難な課題に対して論理と創造力で立ち向かうことこそが工学の喜びであり、誇りでもあります。後援会の皆様におかれましては、大きく変貌を遂げつつある工学部の姿を温かく見守っていただくとともに、時には厳しく、時には力強いパートナーとして、引き続きお力添えをいただけますと幸いです。

学務委員会だより

学務委員会委員長 井 上 健 司
(大学院理工学研究科 機械システム工学専攻 教授)



工学部学務委員会は、学部学生が入学してから卒業するまでの教育および生活や健康を支える役割を担っています。その組織は、委員長、副委員長、教育担当副学部長を中心に、各学科から選出された委員で構成され、学科ごとの違いを吸収しつつ、工学部全体としての統一した対応が可能な体制となっています。さて、入学した学生は、高等学校等で手厚いサポートを受けていた状況から、自分用の時間割を考える、単位取得を管理するといったことが求められることに、戸惑うケースも少なくありません。そのような学生に対して、進級、卒研着手、卒業といったいくつかの関門をクリアで

きるように、オリエンテーション等で指導していくことが、学務委員会の役割の一つです。その一方で、学生には、自主性や自己管理能力を養ってもらうことも重要です。適度な距離感を保ちながら、学生を支援することが、大切と考えています。大学を卒業した学生は、大学院進学や就職など、それぞれの道を進んでいくことになります。言い換えれば、学生から社会人へと劇的な変化を遂げる人生のターニングポイントであり、これを支えるのが、大学の責務といえます。今後とも、教職員一丸となって学生の教育に努めてまいりますので、関係の皆さまにおかれましては、引き続きご支援頂けますようよろしくお願い申し上げます。

教務委員会だより

教務委員会委員長 落 合 文 吾
(大学院理工学研究科 化学・バイオ工学専攻 教授)



教務委員会は、大学院博士前期課程(修士課程)と大学院博士後期課程(博士課程)の教育、学生支援、学位取得などに関する事項を取り扱う委員会です。大学院は、既に知られていることを基礎として学ぶのが中心である学部時代とは異なり、未知のことを解き明かす研究が中心となった学びの場です。特に博士後期課程では、自立して課題を解決できる高度な博士人材としての資質が求められます。

いずれの課程においても、専門性を深めることはもちろん、社会の幅広い分野で活躍するための汎用的な実践力を身につけることが重要です。その強力

な武器となるのが、現代の必須ツールであるAIやデータサイエンスです。産業界からも、高度な専門知識に加え、これらの技術を使いこなすスキルを持つことが強く期待されています。

山形大学では、こうした時代の要請に応える教育を整え、内容を継続的にアップデートしております。学生の皆様が自立した研究者・技術者として社会へ羽ばたけるよう、教職員一同で学びの環境づくりに邁進してまいります。保護者、関係者の皆さまにおかれましては、今後とも本学の教育活動へのご理解と温かいご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

山形の未来を切り開け！



国際交流の機会を創る

国際交流センター副センター長 安原 薫

今年度から、国際交流センターに配属されました。よろしくお願いいたします。

本年度、大学院も含め工学部の留学生は92名（令和8年5月1日現在）になりました。一方、昨年度に工学部から海外へ派遣した日本人学生は17名（すべて1～2週間の短期派遣）でした。工学部が受け入れる留学生は多いものの、逆に派遣する学生はまだ少ないというのが現状です。

山形大学では、「グローバル・チャレンジ・パッケージ」（奨学金や渡航支援、情報提供を含む）という制度で、日本人学生、海外からの学生双方の留学を支援しています。そこで、工学部でも、4月に「工学部版留学フェア」を開催し、日本人学生が直接国際交流センターの教員に留学について相談できる機会を設けました。そして、この夏も工学部国際連携サマープログラムを通じて、学生の留学を後押ししていく予定です。

この文章を執筆中、隣の国際交流ラウンジから学

生たちの楽しそうな声が聞こえてきました。SNSやAI翻訳が進む中でも、異文化を背景に持つ人と人が直接交流できる機会を創出し維持することが、国際交流センターのこれからの重要な使命であると考えています。

最後になりましたが、工学部後援会と米沢工業会の助成により、昨年度実施した同サマープログラムでは参加学生がモンゴルでさまざまな異文化を体験し、視野を広げて大きく成長することができました。また、国際交流会館の冷蔵庫・電子レンジの買い替えや、かねてから要望の強かった1階のWi-Fi環境の整備にもご支援いただきました。これにより、日本に到着したばかりの留学生が、すぐに故郷のご家族へ無事を報告できるようになりました。

今後とも国際交流センターの活動にご理解とご支援を賜りますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。



工学部版留学フェアの様子



Summer Program 2025 in Mongol

学 科 だ よ り

高分子・有機材料工学科

学科長 教授 鳴 海 敦



化学で創り、物理で説く。未来を拓く、高分子・有機材料。当学科のキャッチフレーズです。「高分子・有機材料に関する化学や物理などの基礎から応用に至るまで幅広く学ぶ」を理念とする新学科の発足が2017年。理念を胸に刻んだ卒業生も着実に増え、社会での活躍の場も一層広がってまいりました。

本年3月には、第5期生を中心とする136名が卒業証書を手にしました。また、第3期生にあたる114名が修士号を取得しました。英語セッションでの公聴会



卒業研究発表ベストプレゼンテーション賞と修士論文公聴会 Best English Presentation Awardおよび優秀講演賞の授賞式の様子

には過去最多の21名が挑み、活発な議論が展開されました。博士号取得者も5名を数えました。材料科学分野では、学科の人材育成ポリシーでもある「環境・エネルギー問題の解決に貢献する次世代の先進的技術者」へのニーズが、より一層高まっております。未来を拓くご活躍を心より期待しております。

2026年4月、例年よりやや早い桜の開花とともに、本年度も145名の新入生を迎えました。今後ともご支援を賜りますようお願い申し上げます。

化学・バイオ工学科

学科長 教授 今 野 博 行



今年の冬は雪が少なく、例年より少し早い春を迎えております。ポストコロナ時代になり、講義は対面を基本としつつ、オンライン/オンデマンド形式が定着しました。学生たちの就職活動ではインターンなど新しい仕組みが構築され時代の変化を感じています。

そのような状況下においても、卒業論文、修士論文の作成には多くの実験の積み重ねが必要であり、学生たちはしんどい思いをしながらも論文作成、発表会をやり遂げてくれました。3月には化学・バイオ工学科から127名が卒業し、化学・バイオ工学専攻博士前期課程から57名、後期課程から3名が修了しました。卒業生、修了生たちは進学や就職などそれぞれの進路先で活躍してくれるものと信じています。また、長年にわたり教育・研究にご尽力された神戸士郎先生、阿部宏之先生、高畑保之先生が定年退職されました。私たちとしては少し寂しく感じますが、次のステージでもご活躍され

ることと思います。

4月に入り学科新入生145名、大学院生84名を迎え入れ、新年度をスタートすることができました。松が岬公園の桜が咲きほこり、自然と笑みがこぼれ、少しほっとしているところです。学生たちには勉学・研究活動に邁進していただき、学科・専攻の新たな歴史を作ってくれることを期待しています。

後援会ならびに諸関係の皆様には、本学科・専攻へのご指導、ご鞭撻を末長くよろしくお願い申し上げます。



情報・エレクトロニクス学科

学科長 教授 高野 勝 美



当学科は、近年話題の成長分野をけん引する学科として期待されています。その出口戦略として、令和7年度は学生の企業見学を充実させました。山形県と米沢工業会からご支援を頂戴し、県内と東北近県の企業7社に希望学生を引率いたしました。自ら学んだ学問が産業界で活かされる様子を目の当たりにし、学生たちの目が輝いていたのが印象的でした。

また、コロナ禍で中断していた卒業研究発表会の優秀者表彰式を、令和7年度より再開いたしました。多くの教員が見守る中で表彰を受け、拍手で称えられる経験は、学生たちの努力が報われる機会となりました。

また、コロナ禍で中断していた卒業研究発表会の優秀者表彰式を、令和7年度より再開いたしました。多くの教員が見守る中で表彰を受け、拍手で称えられる経験は、学生たちの努力が報われる機会となりました。

り、今後の大きな糧になったことと確信しております。

今後とも皆様方のご理解と、なお一層のご支援とご協力をお願い申し上げます。



復活した卒業研究発表会優秀発表の表彰式

機械システム工学科

学科長 教授 上原 拓也



令和7年度には、機械システム工学科からは127名が卒業し、6割ほどが大学院の博士前期課程に進学しました。また、同専攻博士前期課程からは65名が修了し、その多くは製造業を中心とする企業へと就職しました。

卒業生・修了生については、日本機械学会、日本設計工学会、自動車技術会、日本ロボット学会など、多くの学会からの表彰を受け、産業界での活躍も期待されています。このように、本学科・専攻の卒業・修了生は幅広い分野で活躍しており、工学部後援会から支えていただく立場から、学生を支える立場へと力を付けていくものと期待しております。また、我々も、皆

様からの期待に応えられる人材の育成に向け、教育の一層の充実に努めてまいりますので、今後とも、ご支援、ご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



機械システム工学科・専攻表彰式での記念撮影

建築・デザイン学科

学科長 教授 三 辻 和 弥



学部2年生や3年生を中心に例年、建物見学等の学外研修を行っています。2025年度も置賜地方の森林、製材、建設関係の皆様のご協力を得て、県営林での森林見学、植林体験、製材所見学、木造建物の施工現場見学を実施しました。建築だけでなく広く他分野への見識を広げるよい機会となっています。森林見学ではチェーンソーで木を切り倒す実際の間伐の様子を見せてもらったほか、木の成長

に長い時間が掛かることや熊剥ぎ被害など最近の森林の状況を知ることができました。植林体験では杉の苗木を植えて、その半年後には下刈りに参加し、製材工場見学では最新のプレカット技術に触れて精度よく木材が加工されていく様子を見せてもらい、木造建物の見学ではそれら木材がどのように使われて建物を構成していくかについて学びました。これからも地域や卒業生の皆様と連携し、実際のモノに触れる機会を増やしつつ、研究・教育を進めていきたいと思います。今後とも皆様のご支援・ご協力をお願い申し上げます。



間伐



建物模型組立

システム創成工学科

学科長 教授 真 壁 幸 樹



システム創成工学科では、従来の専門分野にとらわれない教育を通して、新しい価値を生み出すことのできる人材の育成に取り組んできました。

1年次から米沢キャン

パスで学ぶ環境のもと、工学の基礎を丁寧に修得するとともに、学生同士の関わりを通じて、主体性や協働する力を育むことを大切にしています。2025年度からは情報科学の要素を取り入れた教育体制へと進化し、分野横断的な学びを展開しています。さらに、総合型選抜では女子枠を設け、多様な視点を持つ学生が学び合える環境づくりを進めています。多様化・高度化する

社会の課題に対応できるよう、柔軟な思考力と実践的な力を兼ね備えた人材の育成を目指してまいります。今後とも、本学科の活動にご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。



2026年2月 卒業行事での4年生(当時)の写真

キャリアサポート室だより



理工系の就職 令和7年度の総括と今年度の展望

キャリアサポートセンター長 **成田 克**

(大学院理工学研究科 数理情報システム専攻 教授)

令和7年度の本学工学部における就職状況は、理工系人材への需要が依然として高く、企業側の採用意欲の強さが顕著に見られる中、学部生・大学院生ともに内定率100%を達成し、全員が進路を決定するに至りました。近年はインターンシップ参加を契機とした早期選考が定着し、年内に内定を得る学生も増加しています。一方で、県内企業への就職割合は前年度より6.4%減少しており、地域産業を支える人材の輩出という観点では、なお課題が残る結果となりました。

キャリアサポート室では、個別相談やエントリー

シート添削の実施に加え、OB・OGの来訪による業界セミナーや企業説明会の充実を図り、米沢にいながら多様な業界・企業について学べる機会を提供しています。今年度も引き続き、学科と連携したきめ細かな支援体制を維持するとともに、県内企業・自治体との接点強化など、地域定着に向けた取り組みを一層推進してまいります。

就職活動は、自身の専門性や価値観を見つめ直す重要な機会です。将来を見据え、自ら納得できる進路選択ができるように、在学中に多様な経験を重ね、物事を見極める力を是非養ってください。

学生相談室だより

学生相談室長 **幕田 寿典**

(大学院理工学研究科 機械システム工学専攻 教授)



工学部学生相談室は工学部保健管理室内に設置され、学生が安心して充実した学生生活を送れるよう多方面から支援しています。臨床心理士・公認心理師のカウンセラーが常駐し、授業・研究・生活・進路・人間関係・心身の不調・ハラスメントなど幅広い相談に丁寧に対応します。相談内容の秘密は厳守され、どんな些細なことでも気軽に利用できます。

相談方法は、対面（工学部保健管理室）のほか、電話、メール、Zoomを用いたオンライン面談など柔軟に選べます。緊急時には学科長やアドバイザー教員と連携し、安全確保を最優先に迅速に対応します。

相談方法は、対面（工学部保健管理室）のほか、電話、メール、Zoomを用いたオンライン面談など柔軟に選べます。緊急時には学科長やアドバイザー教員と連携し、安全確保を最優先に迅速に対応します。

学生相談室では、ニュースレターの発行、講演会、

多様性について語り合う「カラフルCafé米沢」、ストレスマネジメントや進路をテーマとした「グループワーク」など、学生の成長を支える企画を不定期に開催しています。情報はXやWebclassで発信しています。希望者は性格検査などの心理検査も受けられ、自己理解や進路選択に役立てることができます。

今年度は、ロボットとのコミュニケーションを通じたPRイベントや、学生委員主催の「からだチェックフェスタ」での出張相談など新たな取り組みも予定しています。学生相談室は、困ったときだけでなく「少し話したい」「気持ちを整理したい」というときにも利用できる場として、今後も学生の皆さんを継続的に支援していきます。

もりもり留学体験記 in Thailand!!

2025年度 海外研修実習 ラジャマンガラ工科大学タンヤブリ校 (RMUTT)



大学院有機材料システム研究科博士前期課程有機材料システム専攻修了 関谷 清俊

工学部の海外派遣プログラム「海外研修実習」に応募し、9月に単身でタイの協定校ラジャマンガラ工科大学を訪問しました。応募のきっかけは、学部4年生の時に「工学部国際連携サマープログラム」に参加し、タイのカセサート大学の学生と交流したことです。この経験から、タイという国の文化や大学の研究環境をさらに理解したいと思い、申込みました。

研修実習の期間中、様々な研究室を訪問し、そこで行われている研究や設備を見学しました。タイではバナナやタピオカの皮などの天然資源を利用した研究やインフラ設備の向上を目指した水の浄化に関する研究が盛んに行われています。その中でも私はバイオマス接着剤の研究をしているため、タピオカ由来のバイオマスフィルム作製を一から体験できたことが特に印象に残っています。試料を保存するときの湿度や温度を適切に調整することや、均一に樹脂を塗ることを学ぶことができました。日々の生活のサポートにはバディが私についてくれました。スケジュールの急な変更などの困ったときや食事の際、時間を共に過ごしてくれ、バディにはいろいろ助けてもらいました。深い絆を築きあげ、バディとは現在も連絡を取り合っています。

また、休日には、2年前にサマープログラムで親

睦を深めた友人と再会しました！彼の家に泊まり、タイの生活様式などの文化への理解を深めることができました。

これは余談ですが、タイに着いた時にキャリーケースを間違えて他の旅行客に持っていかれてしまうというトラブルが起きました。2日経っても戻ってこなかったため、私を含めた周囲の全員が盗まれたと思いました。しかし、3日後の朝に空港から連絡があり無事に荷物を受け取ることができました。この経験から学んだことが二つあります。一つは、8割の荷物を失っても何とかなること。もう一つは、助けてくれた周りの人の温かさを知ることができ、訪問先の国をより好きになれたことです。旅先で起きるトラブルは自分の考え次第で良くも悪くもなります。留学を通して自身の考え方の柔軟性も身につけ、今後起きるトラブルへの対応力が養えることも大きな収穫でした。

最後に私から海外留学のハードルが高いと感じる人へのアドバイスです。まずは団体に参加することができるサマープログラムに挑戦し、その後、個人で大学を訪問する海外研修実習を利用すると無理なくステップアップできると思います！海外挑戦をすることで自らの視野を広げようとしている皆さんの明るく幸せに満ちた未来を願って体験記を終わります。



就職活動と後輩へのアドバイス



システム創成工学科卒業

小林 大 祐

大学生活を過ごすうえでのポイントは？

積極的に人との関係を築くことです。私は、1年生の頃からサークルなどの活動に参加することで学外の方々とたくさん関わり、そのなかで大切なつながりがたくさんできました。なので皆さんには勉学やアルバイト、趣味などに時間を使うのもよいですが、その中でたくさんの人と関わろうとしてみて欲しいです。そうすればきっと、たくさんの楽しい思い出や大切なつながりができ、充実した大学生活だったなと思えると思います。たくさん時間があると思って4年間はあっという間です。何事も後回しにせず積極的に取り組んでみてください!!

卒業後の進路を決める際のポイントは？

建設業の技術職を選択しました。私は大学で高分子化学を学んでいたため、当初はその技術を活かせる職業に就こうと思っていました。しかし多くのインターンに参加した際に、私にとって大事なことは職種ではないことに気づきました。なのでぜひ学ん

でいることや好きなことに捉われず、幅広い職種のインターンに行ってみてください。おそらく大学卒業後の進路選択は、人生において一番重要な岐路だと思います。何となくで決めるのではなく、幅広い視野を持って、自分の人生において何を大事にするかを考慮した進路選択をしてください。

後輩の皆様へ向けたメッセージ

大学生活は「やってみたい」を形にできる貴重な時間です。失敗を恐れず興味のあることにたくさん挑戦してください。挑戦の先には必ず新しい景色が待っています。これからの大学生活がみなさんにとって実り多い時間になることを心から祈っています。



大学院理工学研究科博士前期課程建築・デザイン・マネジメント専攻修了 本 橋 のどか

大学生活を過ごすうえでのポイントは？

「なんでもいいからやってみる」ことだと思います。大学は、自ら考えて行動することが求められる場であり、高校までのように誰かが指示してくれるわけではありません。悩むことも大切ですが、迷ったときはまず行動してみることが重要です。建築学生であれば、実際に手を動かして模型を作ること、新たな気づきや学びが得られます。ぜひ積極的に挑戦し、悔いのない大学生活を送ってください。

卒業後の進路を決める際のポイントは？

自己分析を徹底的に行い、自分の設計理念とあった会社を選択しました。会社を決めるうえで、自分はどういう人間なのか、何が得意なのか、そしてそれをその会社でどのように生かせるのかを理解することが大切です。自己分析は企業研究にもつながります。些細なことでも構いません。自分の得意な

ことや、他の人とは異なる自分らしさを見つけてみてください。悔いのないように、自分が最も輝ける会社を見つけられるよう、頑張ってください。

後輩の皆様へ向けたメッセージ

何事も楽しむことが大切だと思います。就活は大変なこともあります。楽しもうという気持ちが自分の成長につながります。自分らしく、前向きに頑張ってください。



令和7年度卒業・修了者の就職・進学先一覧

1. 工学部

(令和8年4月16日現在)

コース	学科	就職内定先・進学予定先	(順不同)
昼 間	高分子・有機材料工学科	日研トータルソーシング㈱、メイコーエレクトロニクス㈱、㈱荘内銀行、スミダ電機㈱、パラカ㈱、㈱KSK、㈱ユードム、日弘ビックス㈱、㈱アビスト、日本NCRビジネスソリューション㈱、㈱ケミトックス、ムネカタ㈱、アイジー工業㈱(2名)、上越市職員、日本コムシス㈱、㈱エンプラス、東京システムハウス㈱、トヨタ自動車東日本㈱、日東ベスト㈱、㈱リード、不二ラテックス㈱、日新製薬㈱、㈱コバヤシ、日星電気㈱、㈱日本科学技術研修所、山形大学大学院(99名)、東京科学大学物質理工学院材料系、東京電機大学大学院システムデザイン工学研究科、横浜市立大学生命ナノシステム科学研究科、PSL研究大学 (Université PSL)	
	化学・バイオ工学科	㈱ナガオカ、NOK㈱、ビジネスシステムサービス㈱、大昌電子㈱、ソニーセミコンダクタマニュファクチャリング㈱、北越コーポレーション㈱、横山牧場、夏日光学㈱、㈱あんしん、群栄化学工業㈱、ラディックス㈱、会津オリンパス㈱、O KIサーキットテクノロジー㈱、アイ・ビー・テクノス㈱、東和薬品㈱、ナミックス㈱、㈱いーふらん、大船渡市職員、浜理PFST㈱、浜松市職員、AGCセイミケミカル㈱、㈱菊星、㈱クスリのアオキ、日新製薬㈱、山形県警察、㈱松風、㈱アルピオン、高級アルコール工業㈱、㈱ステップ、㈱富士薬品、NECソリューションイノベータ㈱、米沢市職員、DMG MORI precision boring㈱、日興薬品工業㈱、㈱NTTデータ東北、㈱東陽理化学研究所、クレハ合繊㈱、岩手県職員、アプライドマテリアルズジャパン㈱、福島県職員、千代田エクスワンエンジニアリング㈱、東京都職員、㈱JT、㈱タマディック、DIC EP㈱、㈱コモリ、日本大学通信教育部、山形大学大学院(72名)、名古屋大学大学院、東北大学大学院、東京科学大学大学院(3名)、筑波大学大学院(2名)	
	情報・エレクトロニクス学科	パイオニアシステムテクノロジー㈱、六郷いわまつ歯科、富士フィルムビジネスイノベーション㈱、アルカディアシステムズ㈱、NECビジネスインテリジェンス㈱、東北総合通信局、㈱クスリのアオキ、㈱NTTデータNJK、㈱スクーターフィルムズ、スズキ教育ソフト㈱、㈱シグマソリューションズ、新潟県職員、㈱セガ、HRプロビジョン㈱、㈱クレソソフト、㈱アイ・エス・ビー、㈱ジェイマックスソフト、セイコーエプソン㈱、㈱ソフトクリエイティブホールディングス(3名)、㈱DNPデジタルソリューションズ、三菱地所ITソリューションズ㈱、ジェイアール東海建設㈱、東芝情報システム㈱(3名)、㈱IDGフィーリスト、㈱マーブル、㈱トレジャー・ファクトリー、㈱エム・エス・アイ、鹿島南共同発電㈱、VeecoTech Solutions㈱、アルプスアルパイン㈱、㈱アミル、㈱マイナビedge、㈱共和電業、日本電設工業㈱、TDK㈱、シャープマーケティングジャパン㈱、トヨタ自動車東日本㈱、㈱シーテック、カメイ㈱、日本コークス工業㈱、フォスター電機㈱、東北電力㈱(2名)、DXアンテナ㈱、Japan Advanced Semiconductor Manufacturing㈱、伊豆急行㈱、その他、山形県職員、エスシーアイ総合システム㈱、㈱マコメ研究所、㈱クレスコ、東京エレクトロン㈱、大崎電機工業㈱、南陽市職員、㈱アルプス技研、サーモス㈱、萩原電気ホールディングス㈱、山形大学大学院(74名)、筑波大学大学院(2名)、電気通信大学大学院(2名)、東北大学大学院(9名)、横浜市立大学大学院、九州大学大学院	
	機械システム工学科	㈱ナガオカ、㈱協和技建、東芝プラントシステム㈱、アドマックス㈱、第一建設工業㈱(2名)、日本軽金属㈱、㈱ホンダテクノフット、㈱山形銀行、富士電機㈱(2名)、㈱彌満和製作所、日本ケミコン㈱、日本精機㈱、新潟県職員、NECプラットフォームズ㈱、山一電機㈱、㈱エクシード、リコージャパン㈱、㈱日立ソリューションズ東日本、玉川電器㈱、スズキ㈱(2名)、㈱The new gate、山形市職員(2名)、トヨタ自動車東日本㈱、北海道電力㈱、㈱SI&C、㈱駿河生産プラットフォーム、㈱ジェイテクト(2名)、明電システムソリューション㈱、㈱ハイマックス、ミネベアミツミ㈱、㈱ヘクスルワークス、エムイーシーテクノ㈱、NITTOKU㈱、Astemo㈱、東京都職員、㈱宮城ニコンプレッション、㈱デンソーFA山形、㈱東京精密、本田技研工業㈱、川崎重工業㈱、法政大学大学院研修生、山形大学大学院(68名)、東北大学大学院(5名)、名古屋大学大学院、電気通信大学機械知能システム学専攻、北陸先端技術大学院大学、福島大学共生システム研究科共生システム専攻、芝浦工業大学理工学研究科、京都大学大学院	
	建築・デザイン学科	福島県職員(2名)、㈱一条工務店(2名)、㈱美建工業、山形県職員、住友不動産ハウジング㈱、㈱藤田建総、YKK AP㈱、都職員、㈱クロスファクトリー、札幌市職員、東日本高速道路㈱、タカラスタンダード㈱、ユニオン建設㈱、㈱鴻池組、㈱シエルト、㈱フロンティアコンサルティング、㈱ウヅヤモト、㈱一条工務店宮城、応用技術㈱、㈱北洲、渡辺建築工房、西尾レントオール㈱、大成建設㈱、㈱B.N.クリエイション、山形大学大学院(7名)	
フ レ ク ス	システム創成工学科	㈱ワールドインテック、東北電力㈱、持田製薬㈱、㈱リード、グローバルウェーブ・ジャパン㈱、㈱セブンアンドアイホールディングス、関東信越国税局、セントラルソフト㈱、㈱ピーネックステクノロジーズ、NITTOKU㈱、㈱テクノプロ、NECプラットフォームズ㈱、㈱大気社、山形大学大学院(29名)、島根大学大学院	

2-1. 大学院理工学研究科博士前期課程

専攻	就職内定先・進学予定先	(順不同)
化学・バイオ工 学 専 攻	オイレス工業㈱、東ソー㈱、日本化学工業㈱、東京システムズ㈱、リンナイ㈱、㈱ナカボーテック、㈱日立製作所、日東電工㈱、三菱商事ライフサイエンス㈱、東芝マテリアル㈱、第一三共㈱、㈱伊勢半、林テレンプ㈱、一般財団法人 材料科学技術振興財団、DIC㈱、興研㈱、アステラス製薬㈱、トヨタ自動車東日本㈱、関西酸素㈱、㈱タムラ製作所、堺化学工業㈱、野村マイクロ・サイエンス㈱、㈱中外臨床研究センター、TOYOTIRE㈱、住友大阪セメント㈱、タンガロイ㈱、デンカ㈱(2名)、本州化学工業㈱、リントック㈱、ニプロファーマ㈱、伊勢化学工業㈱(2名)、東和薬品㈱、富士電機㈱、ヨネックス㈱、三菱製紙㈱、アキレス㈱、TOA㈱、古河電気工業㈱、㈱潤工社、ニプロ㈱、大日本塗料㈱、トヨタバッテリー㈱(2名)、㈱金属被膜研究所、㈱SUBARU、吉野石膏㈱(2名)、テクノプロR&D社、千代田化工建設㈱、太陽誘電㈱、王子ホールディングス㈱、㈱アリミノ、山形大学大学院(3名)	
情報・エレクトロニクス専攻	安川オートメーション・ドライブ㈱、㈱SJC、マツダ㈱、新電元工業㈱、日立ヴァンタラ㈱、AGC㈱、防衛医科大学校病院、㈱デンソー、日本機械保線㈱、AJS㈱、㈱日立ソリューションズ東日本、㈱日立ソリューションズ、日本電気通信システム㈱、日本アイ・ビー・エムデジタルサービス㈱、㈱アドバンテスト、㈱ダイドー電子、㈱ワイズマン、アマノ㈱、㈱日立製作所、TDK㈱(2名)、NTTイノベーションディバイス㈱、ヒロセ電機㈱、日産自動車㈱、日東電工㈱、㈱電通デジタル、富士電機㈱(4名)、東北電力㈱、日本電子㈱(2名)、東芝デジタルソリューションズ㈱、㈱EDUCOM、グローバルウェーブ・ジャパン㈱(2名)、㈱ニューフレアテクノロジー、三機工業㈱、帝人㈱、パーソルホールディングス㈱、㈱日立産機システム、ディーピーティー㈱、㈱パナソニックシステムネットワークス開発研究所(2名)、浜松ホトニクス㈱、㈱日立ソリューションズ・クリエイティブ、TOPPAN㈱、サンケン電気㈱、東京エレクトロン㈱、㈱JVCケンウッド、㈱コーエーテクモホールディングス、トヨタ自動車東日本㈱、㈱クボタ、ミネベアミツミ㈱、日本航空電子工業㈱(2名)、㈱CRI・ミドルウェア、本田技研工業㈱、DOWAホールディングス㈱(2名)、東芝情報システム㈱(2名)、山一電機㈱、大日本印刷㈱、東洋製罐グループホールディングス㈱、ジェイズ・テクノロジー㈱、㈱オカムラ、日本電気航空宇宙システム㈱、日本精機㈱、信越化学工業㈱、ソニーセミコンダクタマニュファクチャリング㈱、ALSOK㈱、㈱シード、東日本旅客鉄道㈱(2名)、㈱NTTデータMSE、三菱電機デジタルイノベーション㈱(3名)、山形大学大学院(2名)	
機械システム工 学 専 攻	今治造船㈱、㈱クラレ、東海旅客鉄道㈱、富士電機㈱(2名)、スズキ㈱(2名)、三菱重工業㈱、住友ゴム工業㈱、ニチアス㈱、㈱小松製作所、日本ガイシ㈱、三谷産業㈱、ソニーセミコンダクタマニュファクチャリング㈱、日本航空㈱、東北電力㈱、本田技研工業㈱(2名)、富士フィルムヘルスケアマニュファクチャリング㈱、日本軽金属㈱、吉田精工㈱、新明和工業㈱(2名)、ミネベアミツミ㈱山形事業所、トヨタ自動車東日本㈱、マックス㈱、日立建機㈱、日油㈱、三井金属鉱業㈱、㈱マキタ、㈱ヤクルト本社、㈱OTECH、㈱LIXIL、㈱ダイテック、TDK㈱、㈱SUBARU(2名)、住友理工㈱、積水化学工業㈱、北芝電機㈱、㈱小松製作所、㈱プロテリアル、㈱東京精密、㈱イシダ、トヨタ自動車㈱(2名)、いすゞ自動車㈱(3名)、㈱デンソー(3名)、東日本旅客鉄道㈱、HOYA㈱、㈱かわでん、㈱東北電力、大和工業㈱、SMC㈱、㈱モリタ東京製作所、㈱フジキン、ウィーメックス㈱、ヤマハ発動機㈱、東京科学大学工学院、山形大学大学院	

建築・デザイン・マネジメント専攻	自営(農業)、インテグリスジャパン(株)、東日本コンクリート(株)、(株)丹青社、上海森永工程設備股份有限公司、中国黄金集团河南中原黄金製錬所有限責任公司、松井建設(株)、森松エナジー&マテリアルズ(株)、(株)NONNAME ARCHITECTS、佐藤工業(株)、(株)大建設、東日本高速道路(株)、(株)梓設計(2名)、(株)文化財保存計画協会、茨城県職員、山形大学大学院
------------------	--

2-2. 大学院有機材料システム研究科博士前期課程

専攻	就職内定先・進学予定先	(順不同)
有機材料システム専攻	出光 NTC(株)、(株)日吉、クレハ(株)、TOPPANホールディングス(株)、東亜合成(株)(2名)、富士電機(株)、三菱ケミカル(株)、(株)LIXIL、レンゴー(株)、森永製菓(株)、(株)スリーボンド(2名)、日本真空光学(株)、グンゼ(株)、理想科学工業(株)、キョーラク(株)、ポリプラスチック(株)(2名)、トヨタ自動車(株)(3名)、(株)ジーシー、日本曹達(株)、ブラザー工業(株)、オリンパス(株)、NOK(株)(3名)、(株)トクヤマ(2名)、東洋エンジニアリング(株)、サカタインクス(株)、日本通信電材(株)、信越化学工業(株)(2名)、artience(株)、東洋熱工業(株)、中国塗料(株)、(株)コバヤシ、デンカ(株)(4名)、アルプスアルパイン(株)、(株)ニューフレアテクノロジー、シンフォニアテクノロジー(株)、(株)カネカ、朝日インテック(株)、日東紡績(株)(2名)、(株)クラレ(2名)、ゼブラ(株)、東京エレクトロン(株)、リオン(株)、日東電工(株)(4名)、アイカ工業(株)、東洋合成工業(株)、アキレス(株)、大陽日酸(株)、楠本化成(株)(2名)、(株)レゾナック(2名)、DOWAホールディングス(株)、花王(株)、イソライト工業(株)、インテグリスジャパン(株)、大日精化工業(株)、大日本印刷(株)(2名)、トヨタ紡織(株)、日本総合研究所、(株)村田製作所、(株)SI&C、(株)デンロコーポレーション、住友大阪セメント(株)、(株)飯田、(株)シャトレーゼホールディングス、浜松ホトニクス(株)、三菱ガス化学(株)(2名)、三井化学(株)、信越工業(株)、豊田合成(株)(5名)、ジャパンコンポジット(株)、(株)デンソー、エーアイシーテック(株)、本田技研工業(株)、(株)フジクラ、山形大学大学院(12名)、京都大学大学院	

3-1. 大学院理工学研究科博士後期課程

専攻	就職内定先・進学予定先	(順不同)
電子情報工学専攻	有職者(1名)	
先進工学専攻	山形大学(2名)、トヨタ紡織(株)、(株)リコー、積水化学工業(株)、有職者(1名)	
ものづくり技術経営学専攻	福島大学、有職者(1名)	

3-2. 大学院有機材料システム研究科博士後期課程

専攻	就職内定先・進学予定先	(順不同)
有機材料システム専攻	有職者(3名)、山形大学、九州大学	

令和7年度 卒業・修了者の就職状況

(令和8年4月16日現在)

学科・専攻別		屋 間						フレックスコース		博士前期						合 計
		高分子・有機材料工学科	化学・バイオ工学科	情報・エレクトロニクス学科	機械システム工学科	建築・デザイン学科	計	システム創成工学科	計	有機材料システム専攻	化学・バイオ工学専攻	情報・エレクトロニクス専攻	機械システム工学専攻	マ 建 ネ 築 ジ・メ デ ン ザ イ ン 攻・	計	
事項	卒業・修了者数	131 (20)	127 (53)	153 (11)	127 (6)	34 (16)	572 (106)	45 (5)	45 (5)	111 (15)	57 (20)	83 (2)	65 (1)	17 (4)	333 (42)	950 (153)
	就職希望者数	26 (5)	46 (21)	59 (7)	45 (2)	26 (11)	202 (46)	12 (1)	12 (1)	98 (15)	54 (19)	81 (2)	62 (1)	16 (4)	311 (41)	525 (88)
	内 自 営 希 望 者 数	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)
	進 学 者 数	103 (15)	80 (32)	89 (4)	80 (4)	7 (4)	359 (59)	30 (3)	30 (3)	13 (0)	3 (1)	2 (0)	2 (0)	1 (0)	21 (1)	410 (63)
	そ の 他	2 (0)	1 (0)	5 (0)	2 (0)	1 (1)	11 (1)	2 (1)	2 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)	0 (0)	1 (0)	14 (2)
	就 職 者 数	26 (5)	46 (21)	59 (7)	45 (2)	26 (11)	202 (46)	13 (1)	13 (1)	98 (15)	54 (19)	81 (2)	62 (1)	16 (4)	311 (41)	526 (88)
	未 就 職 者 数	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
	就 職 率 (%)	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
	就 職 決 定 率 (%)	92.9	97.9	92.2	95.7	96.3	94.8	86.7	86.7	100.0	100.0	100.0	98.4	100.0	99.7	97.4

[注]()内の数字は女子を示し内数である。
 就 職 率：就職者数÷(就職希望者数+自営希望者数)
 就職決定率：就職者数÷(卒業・修了者数－進学者数)である。

県内就職者数	7 (3)	5 (3)	3 (0)	7 (1)	3 (2)	25 (9)	2 (1)	2 (1)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	2 (0)	2 (0)	5 (1)	32 (11)
県内就職率	26.9	10.9	5.1	15.6	11.5	12.4	15.4	15.4	1.0	0.0	0.0	3.2	12.5	1.6	6.1

山形大学工学部後援会会則

(名称及び事務所)

第1条 本会は、山形大学工学部後援会と称する。

第2条 本会は、次に掲げる会員をもって組織する。

- (1) 工学部学生の保護者並びに大学院理工学研究科(工学系)及び、大学院有機材料システム研究科学生の保護者
- (2) 工学部に勤務する教職員
- (3) 本会の趣旨に賛同する者

第3条 本会の事務所は、山形大学工学部内に置く。

(目的及び事業)

第4条 本会は、工学部の教育及び運営に協力し、併せて学生、教職員の福利厚生
の向上を図るとともに、学生の課外活動を育成援助することを目的とする。

第5条 本会は、前条の目的を達成するために、次の事業を行う。

- (1) 学生の教育、課外活動及び就職斡旋に必要な助成
- (2) 学生及び教職員の福利厚生に必要な助成
- (3) その他、本会の目的達成に必要なこと。

(役員及び任務)

第6条 本会に、次の役員を置く。

- (1) 会長
- (2) 副会長
- (3) 理事
- (4) 監査
- (5) 幹事

第7条 役員の選出は、次のとおりとする。

- (1) 会長は、会員の推挙による。
- (2) その他の役員は、会長が会員の中から委嘱する。

第8条 役員の任期は、1年とする。ただし、再任を妨げない。

第9条 役員の任務は次のとおりとする。

- (1) 会長は、本会を代表し、会務を総括する。
- (2) 副会長は、会長を補佐し、会長に事故ある場合その職務を代行する。
- (3) 理事は、本会の重要案件を審議する。
- (4) 監査は、本会の会計を監査する。
- (5) 幹事は、本会の会務を処理する。

第10条 本会に、顧問をおくことができる。

(会議)

第11条 本会に、審議決定機関として、理事会を置く。

- 2 理事会は、会長、副会長、理事及び監査を持って構成する。
- 3 理事会は、原則として年1回開くものとする。ただし、会長が必要と認めたときは、臨時に開くことができる。
- 4 会長は、理事会を招集し、その議長となる。

第12条 理事会は、次に掲げる事由を審議決定する。

- (1) 会務の報告
- (2) 事業計画に関すること。
- (3) 予算及び決算に関すること。
- (4) 会則の改正に関すること。
- (5) 会長の推挙に関すること。
- (6) その他理事会において必要と認めた事項

(会計)

第13条 本会の経費は、会費、寄付金その他の収入をもってあてるとし、保護者の会費は、入学時または編入学時に全納するものとする。

- 2 納付した会費は、返還しないものとする。
- 3 会費の額は、別に定める。

第14条 本会の会計年度は、4月1日に始まり翌年3月31日に終わる。

(準則)

第15条 本会に、次の帳簿を備える。

- (1) 会員名簿
- (2) 役員名簿
- (3) 会議録
- (4) 会計簿

第16条 本会の運営に必要な事項は、別に定めることができる。

附 則

- 1 この会則は、平成8年4月1日から施行する。
- 2 山形大学米沢教育振興会規則(昭和23年4月1日制定)及び山形大学米沢体育後援会規則(昭和25年4月1日制定)は廃止する。

附 則

この会則は、平成12年5月29日から施行し、平成11年4月1日から適用する。

附 則

この会則は、平成16年6月29日から施行する。

附 則

- 1 この会則は、平成16年12月15日から施行する。
- 2 改正後の会費については、平成17年度入学生から適用する。

附 則

この会則は、平成17年12月6日から施行する。

附 則

この会則は、平成21年6月19日から施行し、平成21年4月1日から適用する。

附 則

この会則は、平成28年6月17日から施行し、平成28年4月1日から適用する。

工学部後援会会費

山形大学工学部後援会会則第13条第3項の規定に基づき、会員が納入する会費は、次のとおりと定める。

- (1) 学部学生の保護者 26,000円
- (2) 3年次編入学学部学生の保護者 13,000円
- (3) 大学院(博士前期課程)学生の保護者 13,000円
- (4) 大学院(博士後期課程)学生の保護者 19,500円
- (5) 本会の趣旨に賛同する者

令和6年度 一般会計収支決算書 及び 令和7年度 一般会計収支予算書

収入の部

(単位:円)

項 目	令和6年度			令和7年度 予算額
	予算額	決算額	差引増減額	
会 費	19,870,500	19,948,500	78,000	20,962,500
雑 収 入	200	9,851	9,651	200
繰 越 金	7,703,740	7,129,371	△ 574,369	6,129,711
過 年 度 修 正	△ 574,369	0	574,369	0
合 計	27,000,071	27,087,722	87,651	27,092,411

支出の部

項 目	令和6年度			令和7年度 予算額
	予算額	決算額	差引増減額	
1 学科厚生補導費	1,270,100	1,277,050	△6,950	1,226,100
学 部 学 生 指 導 補 助 費	562,400	528,800	33,600	563,200
学 科 行 事 等 補 助 費	707,700	748,250	△40,550	662,900
2 一般厚生補導費	2,531,500	1,831,143	700,357	3,533,000
国 際 交 流 関 係 補 助 費	500,000	13,702	486,298	1,500,000
T O E I C - I P テ ス ト 補 助 費	1,000,000	893,350	106,650	1,000,000
学 務 関 係 補 助 費	100,000	60,699	39,301	100,000
保 健 管 理 関 係 補 助 費	30,000	16,842	13,158	30,000
基 盤 教 育 事 業 後 援 費	901,500	846,550	54,950	903,000
3 進路対策補助費	20,000	0	20,000	20,000
4 学生研究助成費	800,000	731,100	68,900	800,000
5 課外活動補助費	1,000,000	363,788	636,212	1,000,000
6 一般体育設備等補助費	100,000	0	100,000	100,000
7 厚生施設等環境整備補助費	500,000	68,524	431,476	500,000
8 研修行事等関係補助費	150,000	0	150,000	150,000
9 学部渉外関係補助費	500,000	127,000	373,000	200,000
10 大学行事補助費	2,000,000	1,167,050	832,950	2,000,000
11 運 営 費	4,015,000	3,392,356	622,644	4,205,000
広 報 費	1,500,000	1,241,019	258,981	1,200,000
会 議 費	150,000	46,832	103,168	150,000
通 信 費	10,000	537,273	△527,273	500,000
事 務 費	1,500,000	1,368,465	131,535	1,500,000
旅 費	50,000	0	50,000	50,000
地区別説明会費	700,000	98,217	601,783	700,000
学 園 都 市 推 進 協 議 会 費	100,000	100,550	△550	100,000
雑 費	5,000	0	5,000	5,000
12 積 立 金	2,000,000	2,000,000	0	2,000,000
13 施 設 協 力 金	10,000,000	10,000,000	0	7,000,000
14 予 備 費	2,687,840	0	2,687,840	4,358,311
15 過 年 度 修 正	△574,369	0	△574,369	0
合 計	27,000,071	20,958,011	6,042,060	27,092,411

山形大学工学部父母等の集い 令和7年度実施報告

■令和7年度 実施報告

地 域	開催日	申込人数
対面開催(米沢)	10月11日(出)	189名
オンライン開催	11月1日(出)	283名

※令和8年度の開催日については、別途郵送にてご案内いたします。

お 知 ら せ

◎各種相談の窓口

学務課学生支援担当 (☎0238-26-3017)

→授業料免除、奨学金、就職、インターンシップ、留学、学生寮、サークル活動、健康相談、
こころの悩み

学務課教育支援担当 (☎0238-26-3015)

→教務(授業・履修・成績)、教員免許、諸証明書の発行、休・退学、転学部・転学科、
科目等履修生、T A

学務課入試担当 (☎0238-26-3013)

→各種(学部・大学院)入学試験、編入学試験

令和8年度工学部年間予定表

前 期(令和8年4月1日～9月30日)

授 業 期 間：4月9日～7月29日

定期試験・まとめ：7月23日～24日、
27日～29日

補 講 期 間：7月30日～31日、
8月3日～5日

夏 季 休 業：8月8日～9月30日

9月学位記授与式：9月25日

後 期(令和8年10月1日～令和9年3月31日)

授 業 期 間：10月1日～2月2日

10月入学式：9月25日

開 学 記 念 日：10月15日

冬 季 休 業：12月26日～1月10日

定期試験・まとめ：1月27日～29日、2月2日、8日

補 講 期 間：2月3日～5日、9日～10日

春 季 休 業：2月20日～3月31日

学 位 記 授 与 式：3月21日

【後援会通信】

工学部後援会では、ホームページに各種お知らせを掲載しております。

山形大学工学部父母等の集いの開催案内につきましても、開催日が近づきましたら、ホームページに掲載し、参加申込みを受け付けます。みなさまのご参加を教職員一同お待ちしております。